

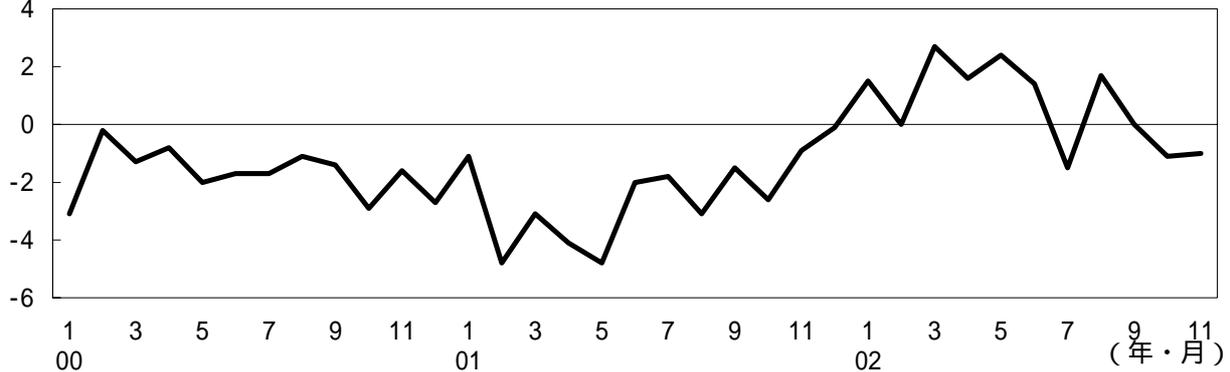
[今月のトピック]

一部にみられた底固さに変化がうかがわれる個人消費

1. 個人消費は、需要側と販売側の動向を総合してみると、横ばいで推移している。
2. これまで、底固く推移していた食料消費や乗用車については、このところ増加の動きが緩やかになるなど（図1、図2）、一部の支出項目や業種でみられた底固さに変化がうかがわれる。
3. なお、今冬のボーナスは前年と比べて大きく減少するなど雇用・所得環境は引き続き厳しく（図3）、消費の下押し要因となる可能性があることに留意する必要がある。

(実質前年比、%)

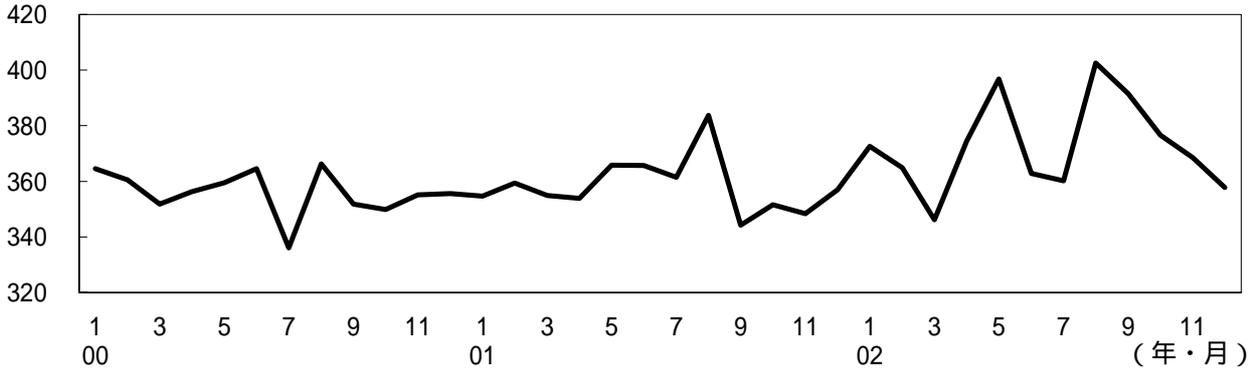
図1 食料消費支出の推移



(備考) 総務省「家計調査」(二人以上の世帯:全世帯)より作成。

(季節調整値、千台)

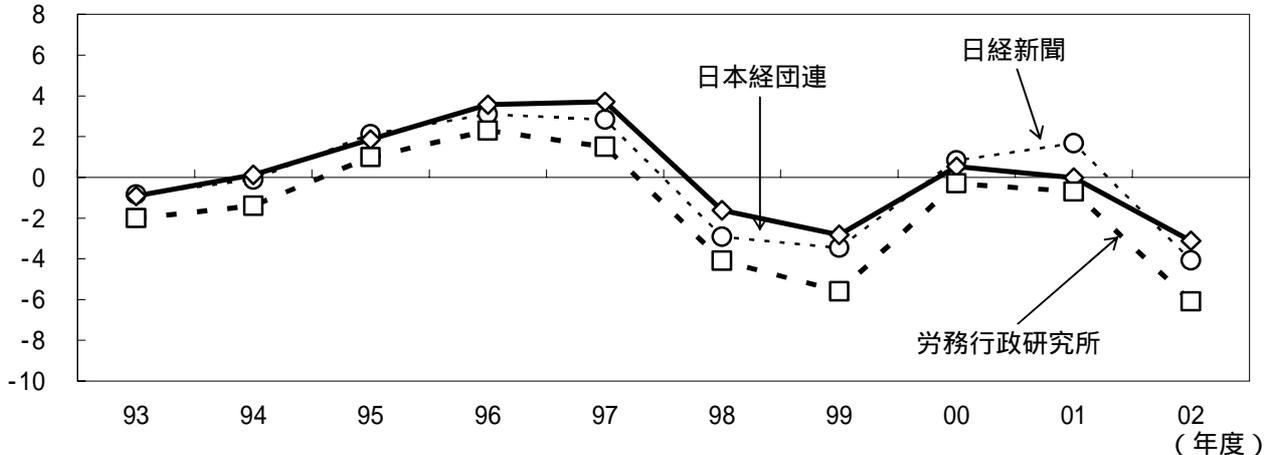
図2 乗用車販売台数の推移



(備考) 日本自動車工業会「自動車統計月報」により作成。

(前年比)

図3 冬季賞与伸び率の推移



- (備考) 1. 2002年度の日本経団連調査は、調査対象である主要22業種・大手291社による最終集計値。
2. 2002年度の日経新聞調査は、上場企業・店頭企業及び同社が選んだ有力な非上場企業1,019社による最終集計値。
3. 2002年度の労務行政研究所調査は、9/24時点で年末一時金を決定していた企業306社の集計値。